

第2回宮城県医師会新型コロナウイルス感染症対策本部会議

日 時：令和2年2月29日（土） 14時～15時

場 所：宮城県医師会館理事会会議室

出席者：佐藤宮城県医師会会长、永井仙台市医師会長、橋本副会長、相場副会長、板橋副会長、奥村常任理事、赤石常任理事、登米常任理事、藤盛常任理事、高橋達也常任理事（宮城県健康福祉部次長）

議事

（1） 第3回宮城県新型コロナウイルス感染症対策本部会議について

佐藤和宏会長より、仙台市で確認された宮城県での初の感染患者の報告を受けて2月29日午前11時より県庁で開催された第3回宮城県新型コロナウイルス感染症対策本部会議について患者の情報等について報告があった。

- 患者は70代男性。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」乗船客、国籍は日本。居住地は仙台市保健所管内、症状は微熱・咽頭痛で状態は落ち着いている。
- 経過
 - 2月20日（木）クルーズ船を下船。下船後、公共交通機関（仙台市長の記者会見によれば、“東北新幹線および在来線”）を利用して帰宅。
 - 2月23日より仙台市による健康フォローアップを開始。
 - 2月28日（金）（下船後8日後）微熱、咽頭痛が確認されたため仙台市の感染症指定医療機関に検査入院。
 - 2月29日（土）午前6時半頃仙台市衛生研究所における検査の結果、PCR検査「陽性」と判明。
- 下船後、公共交通機関を利用して移動以外の行動歴は仙台市保健所が調査中。
- その他として、濃厚接触者1人について患者と同時に検査を実施し、陰性を確認。他の濃厚接触者については仙台市保健所が調査中。

（2） 今後の対応について

現在の新型コロナウイルス感染症の相談・検査・医療体制、全国での発生状況について確認し、以下について情報共有し、対応方針を確認した。

- 現状では、今回の患者は感染経路が明らかであり、他の患者の発生もないことから宮城県内は発生初期段階と判断される。
- 1) コールセンター（一般市民電話相談窓口 県庁内に5回線設置 022-211-3883、24時間対応）へ相談が急増しているが、2) 帰国者・接触者相談センター（宮城県内全保健所、①疑い例の一般住民からの相談対応、②医

療機関からの相談対応、24 時間対応)、3) 帰国者・接触者外来 17 医療機関、
4) 感染症指定医療機関 7 病院 29 床、で対応可能な状態であり、引き続き
現状通り対応していくことが妥当

- 検査実施機関としては東北大学と宮城県医師会健康センターが近日中に可能となる見込みであるが、検体処理能力、開始日については未定である。
- 政府から PCR 検査が保険適応で可能となるように調整中との情報があるが詳細は不明である。
- 将来、国がまん延期として発表した場合は、帰国者・接触者外来を閉鎖することが予想され、新たな対応策が必要となる。
- 発熱、呼吸器症状のある住民が、直接一般医療機関を受診しないようにポスター掲示に加えて TV を用いた広報など、引き続き、宮城県の住民への啓発を期待する。

(3) その他

- 2月 25 日に開催された「宮城県新型コロナウイルス感染症の診療についての打ち合わせ」で紹介された『MERS 感染問題時に作成した感染管理ベストプラクティス』を一般医療機関で参照できるよう、至急賀来教授に掲載 URL あるいは現物を照会し、宮城県医師会ホームページで公開する。
- 新型インフルエンザ流行時に作成された感染症対策指針『医療機関における新型インフルエンザ等対策立案のための手引き、平成 25 年 9 月暫定 1.1 版、平成 25 年度厚生科学研究費補助研究、分担研究者 田辺正樹』の 22~26p 参照（https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekakukansenshou/influenza/dl/guide_tebiki-02.pdf）、特に 24p『外来部門における院内感染防止策』が参考になる。
- 東北大学病院で外勤で救急外来を担当する場合の手引きを作成したので、東北大学病院に了承が取れ次第、公開する方針とする。
- 今後、これまで会員向けに新型コロナウイルス感染症の情報提供を行ってきたが、今後は会員のみならず、一般住民にも知つてもらいたい情報については宮城県医師会ホームページで情報提供していく。

令和 2 年 3 月 1 日

文責 藤盛 啓成